

副教材「海運と船と港の役割」を活用した授業案(平成26年12月8日)

倉敷市 佐野 薫 教諭

1. 副教材作成の趣旨

日本は、周囲を「海」に囲まれた海洋国である。資源の乏しい日本では、私たちの生活や産業は、船で貨物を運ぶ海運、その船を造る造船、船を運航する船員、貨物を船と陸の間で積み降ろしする港湾運送などの海事産業によって支えられている。しかし、海事産業が私たちの生活や産業を支えていることについては、児童は理解していない。そこで、副教材を通して児童が海事産業の大切さを理解し、身近に感じてほしいと願っている。

2. 本時での副教材等の活用について(小学校5年対象)

- ・ 1単位時間であるが、できるだけ多く副教材を活用できるように工夫する。
- ・ 副教材に関連したワークブックを活用する場面を設ける。

3. 本事業

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の産業において海運(外航海運と内航海運)が果たしている役割を理解できるようにする。 ・ 国際貿易港・水島港の特色について理解し、関心をもつことができるようにする。 		
	学習活動	教師の支援と工夫	副教材等との関連
1.	水島港について知っていることを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水島港の写真を提示することで、児童の水島港について知っていることを想起しやすくする。 ・ 取扱貨物量のベスト10の港を提示し、順位を予想することで、本時のめあてにつながるようにする。 ・ 水島港は、取扱貨物量が全国第6位であることをおさえることで、身近にある水島港に対する関心が高まるようにする。 	副教材 P22
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">産業における港と船の役割について調べよう。</div>			
2.	外航海運と内航海運について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が工場見学した経験のある自動車産業を例に図で説明をすることで、外航海運と内航海運についてとらえやすくする。 ・ 外航海運についてより理解できるように、副教材を活用して各自でワークブックをする。 	ワークブックP3・4 副教材P1～6
3.	国際貿易港・水島港(港湾運送・造船業)について調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水島港の周辺にあるものについて調べることで、港の周りには、造船所や自動車工場、製鉄所、コンテナターミナルなどがたくさんあることをとらえやすくする。 ・ 「なぜ港の周りにたくさんの工場があるのか」と投げかけることで、自動車工場や製鉄所の見学で学んだ工場の立地と輸送との関連を想起しやすくする。 ・ 水島港の輸出・輸入相手国を紹介することで、水島港を窓口にして様々な国とつながっていることをつかみやすくする。 <p>*主な輸出国...韓国、中国、台湾、アメリカ *主な輸入国...オーストラリア、サウジアラビア、クウェート、アメリカ</p>	副教材P19・20 副教材P22